



明けましておめでとうございます。今年もスタッフ一同 CPAP 治療のお力になれるようお手伝いさせていただきます。
寒いこの季節体調を崩されないように、引き続き感染予防に注意しながら過ごしましょう。

さて、今回は『睡眠時無呼吸の治療意義』についてお話致します。



睡眠時無呼吸の治療意義

SAS、特に閉塞性睡眠時無呼吸症候群（OSAS）は様々な生活習慣病を合併します。これは、睡眠中に発生する無呼吸によって血液中の酸素濃度が下がることが原因です。この酸素濃度の低下は『呼吸不全』と同程度の状態であり、当然身体にとっては非常事態です。こうなると心臓は体中に十分な酸素を供給しようと心拍数・血圧を上昇させます。言い換えれば、日中に運動をしている時と同じような負担が心臓にかかるわけです。こうした非常事態が毎晩、一時間に何回も、放っておくと何年間も繰り返されるわけですから、心臓に蓄積する負担ははかり知れません。こうして蓄積した負担が、様々な生活習慣病を引き起こしてしまうのです。

慢性的な睡眠不足や不眠、睡眠リズム障害の患者で免疫力が低下することが、さまざまな研究で明らかにされています。

例えば、不眠症やうつ病の患者などを対象にした研究では、精神的ストレスの影響とは別に、睡眠時間の短さや深い睡眠の減少と免疫機能の低下との間に**関連**が見いだされています。無呼吸症候群が徐々に悪化すると、今度は動脈硬化や糖尿病を併発することがあり、また、肥満の原因にもなってしまふことで知られています。これらの病気により、命の危険を及ぼすリスクも高まってしまいます。

無呼吸症候群が発症した状態で放置しておくと、8年生存率は平均60%程度にまで悪化してしまうと言われております。今は症状がなくても数年後に起こる合併率の出現を少しでも抑えるために**早期の検査・治療**をお勧めいたします。

CPAPの遠隔データ管理を開始しました！

2021年12月より当院呼吸器内科ではCPAP治療器の遠隔データ管理を開始いたしました。皆様がCPAPを夜間使用すると、翌日の午前中にCPAP機器が独自のインターネット回線を介して、その使用データをCPAP管理会社のデータセンターに保存します。そして、保存されたCPAP使用データは、当院担当者がパスワードを用いてデータセンターにアクセスすることにより閲覧することが可能となります。

皆様の病院受診前に、データセンターから情報を取得しその解析結果をもとに主治医の診察を受けていただきます。**来院時、CPAPのSDカード持参が不要**となります。

注意） CPAPの機種により遠隔管理が対応していない方もいらっしゃいます。

来月のCPAP外来は**第2木曜日**の2月10日(Dr秦)、**第4木曜日**の2月24日(Dr秦)に行いますので、お間違えのないように受診してください。

☆ 過去のCPAP外来通信が呉共済病院ホームページでご覧になれます ☆

<http://www.kure-kyosai.jp/> へどうぞ。

発行/ 臨床研究科

